

2016年8月1日

第267号

藤沢

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主な記事

- ・2016 原爆展開催
- ・クマゼミの生息状況 ・エコビレッジ・イサカ
- ・武田研究所近況と講演会
- ・気象情報ジェット気流にまつわる話

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

藤沢市の平和学習に思う

つねづね平和を願っていた私は、平和の輪を広げる実行委員会の募集に心が動いた。2015年の春のことだった。ピースバスツアーなどいくつかある事業の中でも一番関心のあった「平和学習長崎派遣事業」に手を挙げ、願っていた引率の担当になった。小学5年生～高校生32人とともに長崎に行った。行く先々で見聞きするたびに戦争の愚かさ、残酷さを強く感じた。中でも原爆資料館で見た「焼き場で弟を背負った少年」の呆然とした姿に足が止まった。

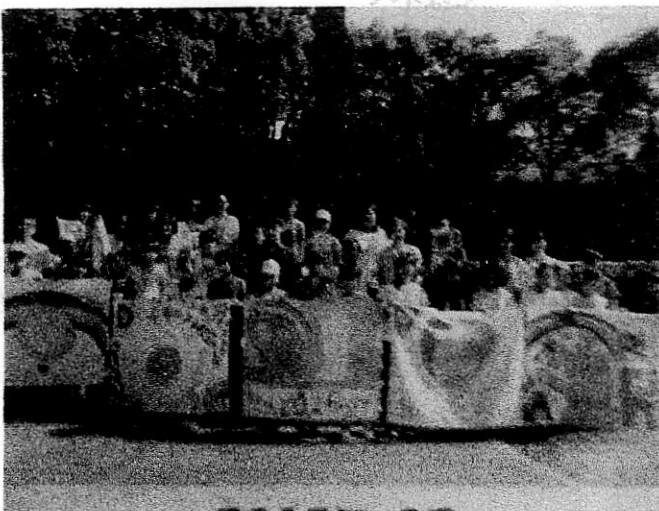
原爆投下はなぜされたのか？ここまでの経緯を考えた。戦争は無差別殺戮に他ならない！！。現地を訪ねた子どもたちは被爆者の惨たらしい思いを、生の声を聞き、いたく感じたと思う。ここで感じたことを多くの人たちに伝え、戦争のない平和な社会をいつまでも、いつまでも続くことを共に願った。

2016年の春、経団連は「武器など防衛装備品の輸出について国家戦略として推進すべきだ」と政府へ提言したことを新聞で知った。防衛装備品の生産拡大も求めるといふ。安全保障関連法の成立により、自衛隊の活動範囲が広がることを見込んで、政府に防衛産業の基盤強化を求める。防衛装備庁が今年10月に発足することを見込んでのことだと思われる。

「命」よりも「利益追求優先」なのか？ 藤沢市の願いと矛盾している。みんなの願いに逆行している。

平和学習参加の子どもたち、すべての子どもたちに平和への願いを学んで欲しい。

(福永洋子)



2016 原爆展 開催

核兵器のない平和な世界をめざして、7月25日から3日間、原爆展をユーコープ辻堂駅前店で開催しました。主催の「ピースリレー・ふじさわ」は、毎年5月16日に藤沢市役所から茅ヶ崎市役所まで沿道の人々に核兵器廃絶を訴えながらパレードする平和行進に続き、核に関する映画会や講演会などを開催してきました。原爆展は高齢化した被爆者の思いを引き継いで若者や子ども達に核兵器の恐ろしさを伝えていくために3年前から始めました。



参加者は神奈川県在住の被爆者の方たちが被爆50年の時に作成された「忘れられないあの日」

という絵画パネルや「原爆と人間」の写真パネルなどの展示を食い入るように見た後に、核兵器廃絶の署名や折り鶴を一緒に折りながら、「子ども(孫)たちと戦争について考える良い機会になりました」とか、「原爆の被害がこんなにひどいものだとは初めて知りました」と感想を述べてくれました。

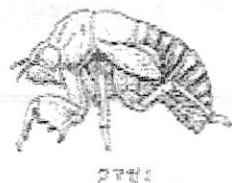
さらに被爆者の体験談には「文献と異なり、肉声による語りは、五感に直接訴えます。すばらしい企画です」とのうれしい感想もいただきました。来年もさらに企画を充実させて続けていきたいと思っています。

(島田啓子)



求む！！ クマゼミの鳴き声やぬけがらの情報

いよいよ 夏本番。セミのシーズンが始まりました。最近、藤沢市内でよく聞かれるようになった「シャーシャー」と鳴くセミの声をご存知でしょうか？これは日本最大のクマゼミの鳴き声です。クマゼミの分布は神奈川県が太平洋岸の北限で、現在、藤沢市が最前線とされています。



2010年8月に県立辻堂海浜公園で集団発生が確認され、その後も続いています。2012年～

2015年までに、市内各地でぬけがらが見つかり、合計17ヶ所となり、現在も、市内で分布拡大中です(Facebook 検索→藤沢クマゼミ調査研究会)。

ぬけがらでセミの種類を見分けることができます。ぬけがらが見つかったということは、そのセミがそこで育ち、羽化した、すなわち、生息していた証拠になります。

自宅などで「シャーシャー」という鳴き声が聞かれたら、カレンダーにその時刻と場所を記入しておきましょう。毎日聞こえるようなら、近くの生け垣や公園などの立木の葉の裏を調べて見ましょう。図のようなぬけがら(体長3.5cm以上)が見つかるかも知れません。

鳴き声は聞こえたけれど今年は、ぬけがらは見つからなかったというのも大切な情報です。翌年にぬけがらが見つければ、新たに分布が拡大している証拠になります。

ぬけがらの見分け方やクマゼミのことを知りたい方は、下記のメールアドレスにメールをください。見分け方の検索表など資料を送ります。また、クマゼミの鳴き声やぬけがら情報(ぬけがらが見つからなかったことも含む)を提供してくださった方には、クマゼミの写真(産卵、孵化、アリに捕食されたクマゼミの幼虫)シリーズを差し上げます。

メールアドレス：shn-miya@jcom.home.ne.jp

宮地俊作(藤沢クマゼミ調査研究会)

武田薬品湘南研究所

近況と連絡会総会・講演会

湘南研究所では新しい、喜ばしい(?)プロジェクトが始まりました。ノーベル賞を「iPS 細胞の作製」というテーマで受賞した京都大学の山中教授率いる京大 CiRA(サイラ)と武田薬品による共同研究がすでにスタートしています。iPS 細胞ときき、再生細胞の分野のみと門外漢は想定しましたが、創薬にも重要な寄与がなされると知り、新薬への展開が進み、「湘南発の新薬」が創出されることは近隣住民にとってもうれしいことと思います。

しかし、「待てよ！」と心の奥底で叫ぶ声が聞こえました。「武田」、あの遺伝子組換え実験廃液漏洩事故を起こした武田だよ、あの事故の検証は十分になされたのでしょうか!? 「監督官庁の文科省の対応は!」、「私たちの安心・安全を守る藤沢市・鎌倉市両自治体は事故後視察を行ったが報告書は作りませんでした」。本当に大丈夫なのだろうか?!

当会は、環境保全協定を結ぶ武田と自治体、加えて近隣住民(協定での定義による)の3者連絡会(議)に新しい共同研究の環境保全・安全管理体制について質問書を提出し、次のような回答を得たので報告します。

「共同研究においては、サイラ研究陣は、武田が市と交わしている環境保全協定を含めて、環境・安全衛生・防災・遺伝子組換え実験等に関わる湘南研究所の研究規則・ルールを前もって学習し、この基準に則って研究を進める、実験開始後も現場研修を行っていくとしております。使用する実験室は通常の生化学実験室と変わりなく、遺伝子組換え実験も P2 レベル以下のもので、共同研究を行う実験棟での大気保全対策、水質保全対策、廃棄物安全対策などに特別のものはない」と、研究所幹部は説明しています。

事故の再発は研究所の閉鎖を意味します。研究所への立ち入り検査ができない当会は武田の見解・説明を信ずるよりほかありません。新任のヒチコック研究所長を初めとし共同研究陣は「安心・安全な稼働」を肝に銘じ研究を進めることを切に希望します。

当会は講演会、学習会等を通して地域の皆様に情報を発信していきます。

今年度の総会8月27日(土)14時から村岡公民館で“iPS 細胞とは”をテーマにバイオハザード予防市民センターの代表幹事である新井秀雄博士に講演をお願いしております

す。多数の皆様にご来場いただきたくご案内申し上げます。
(武田問題対策連絡会 福岡秀治 0467-45-7264)

エコビレッジ・イサカ

日本大学生物資源科学部で学生向け講義に一般市民も参加できることになり6月14日に行われた講義に参加した。主催は糸長浩司教授の研究室、講師はカルツ・ピパ氏でエコビレッジ・イサカ(Ithaca)の代表であり米国ウェルズ大学専任講師。

エコビレッジは地球環境への負荷を少なくし自然と共生した持続可能な暮らしを目指したコミュニティづくりとして世界的に注目されている。

初めて耳にする方も多いと思う「エコビレッジ・イサカ」はニューヨーク州内陸部にあり近くにコーネル大学がある。日本大学の生物環境工学科は海外研修に行き交流している。イサカはコーネル大学やその他の大学との連携で成り立っているようだ。

何なのか?という方に、流暢な日本語と英語で話された講師によれば、持続可能な暮らし方システムを取り入れた土地利用で生活すること。人と人、人と自然、人と生活を共有しながら助け合い、つながりあうコミュニティを作ることを目指している。会員制であり年会費を納め、一定の決まりを守ることが条件で、現在 200人ほどが住んでいる。

ソーラー発電による住宅設計、オーガニック農園、ガーデンづくりなど。中で暮らす人々は比較的裕福な人たちで、エリア内に住み、普通に勤務しながら、決められた活動の一部を負担してお互いに助け合う仕組み。集会室、子ども室、卓球、ビリヤード施設 洗濯機などがあり、時にはイベントで交流を深める。

71ha の敷地に2つのオーガニック農園があり新鮮な野菜を作り、食べると美味しい、安全である、近所なので傷まないなど利点がある。農業を始めたい人には教育の場もある。小さな森や泳げる池、自然の中を散歩できトイレや、自然の中を散歩するのにふさわしいトレッキングコースがある。30戸ずつからなる居住区3つができ、得意とする活動を分担して生活している。

なんとも魅せられる光景が浮かんできた。講義のあと研修ツアーに参加したいとの声もあった。(日比遙)

ジェット気流にまつわる話し (シリーズ3. 大石が生まれた時代)

初代高層気象台台長となった大石和三郎のことは、国際的にはあまり知られていない。高橋ほか(1987)の「気象百年史」によると、上層の強風帯を発見あるいはジェット気流の存在を推論とある。同時に、エスペ란ティストだったことが記載されている。エスペラント語は、1887年にポーランドの言語学者、ルドヴィコ・ザメンホフが発案した言語で、母国語を補助すると同時に全ての国の人々が使用することを目的に創られたものである。

大石の生まれた時代を顧みる場合に、同時代の代表的な気象学者である岡田武松の経歴と並べてみると興味深い。同じ1874年に、大石は佐賀県、岡田は千葉県で生まれた。彼らが誕生したのは明治維新まもない時期である。明治政府は、百年におよぶ鎖国の後に西欧諸国に扉を開き、新しい知識を積極的に受け入れた。教育についても新しい施策が急速に日本全体に浸透していった時代である。

学齢は、3月生まれの大石が8月生まれの岡田より一年早いため、一年先に東京帝国大学(1877年開学)を卒業しエリートとして社会に出た。20世紀初期の統計によると、小学校6年間の教育を受けた者のわずか1/1000がトップクラスとしてその後続く最高学府で大学教育を受ける状況だった。かれらが学んだ物理学の分野は、日本で最初に理学博士号を取得した山川健次郎が率いる難関だった。

大石も岡田も、東京帝国大学を卒業後に中央気象台に勤務した。同じ気象学を志す同年齢のふたりは、お互いによく知っていたと思われる。だからこそだと思われる、その後の気象学へ取り組むアプローチは大きく違った。(つづく)

林 陽生(NPO 法人シティ・ウォッチ・スクエア理事長)

放射能測定値

(HORIBA Radi) 6月中に測定(地上50cm)

辻堂土打公園砂場	0.045 μ Sv/h
藤棚の下	0/049 μ Sv/h
テラスモールのベンチ	0.032 μ Sv/h
神台公園	0.063 μ Sv/h



〈藤沢エコネットニュース267号〉

〈低炭素都市ふじさわをめざして〉

EcoNET INFORMATION

地球温暖化と鳥たちの暮らし

樋口広芳氏講演

8月20日(土) 10:00-12:00

藤沢市民会館小ホール 資料代200円

主催/問合わせ 藤沢探鳥クラブ 0466-25-1817



ふじさわ・不戦の誓い

戦争する国ゴメンです! スピーチ うた 太鼓など

8/15(木) 16時-18時 藤沢駅北口サンパール広場

震災から5年それぞれの視点から伝えたいこと

「原子力災害による健康への影響と長期的課題」

菅谷昭(医師 元松本市長)氏を招き講演会

9月3日(土) 12:40~ 川崎市産業振興会館

主催/申込み: パルシステム神奈川ゆめコープ

Fax 03-4570-5922 (8/22 締切)

武田問題対策連絡会総会

8月27日(土) 14:00-村岡公民館

講演「ips細胞について」新井秀雄氏

藤沢母親大会 9/17(土) 10:00~16:00

記念講演「海の中から地球が見える」武本匡弘さん

午前中は分科会「ザ・おもいやり」上映など

資料代500円(保育あり 0466-26-1980へ申込を)

藤沢エコネットから

◆会員募集=年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行(9900) 店番(029)

当座預金 0046501 73 7710ネット

◆事務局会議 8月12日(金) 14:00~

六会市民活動推進センター

〈編集後記〉8月は原爆投下と終戦の月、平和について思いを馳せる月。敗戦から立ち上がり、平和憲法を背に、話し合いで外国と友好を深めてきた。その結果世界一安全な国となった。しかし今日、平和憲法が危うくなり、人心も荒れてきたように思う。無差別殺傷事件が増えている。武器輸出は止め、平和外交に徹し、助け合う平等な社会を築きたい。(A)